



令和2年10月1日

甲府 旧友会だより

第26号

発行 NHK甲府旧友会

目次

		ページ
◇ 懐かしい「ボロ電」の思い出	会長 萩原 幸造	1
◇ 特別寄稿	局長 安出 光伸	2
◇ 会員短信	会員	3～11
◇ 甲府旧友会の動き		12
◇ 甲府放送局の人事往来		13～14
◇ 「ご挨拶」	転入・新任管理職	15～16
◇ 共済会からのお知らせ・NHK直営保養所のご案内		17～18
◇ NHK甲府旧友会規約		19～20
◇ 編集あとがき		21



ざくろ 水彩 F6

甲府旧友会々員 桜井 実 画

懐かしい「ボロ電」の思い出

甲府旧友会

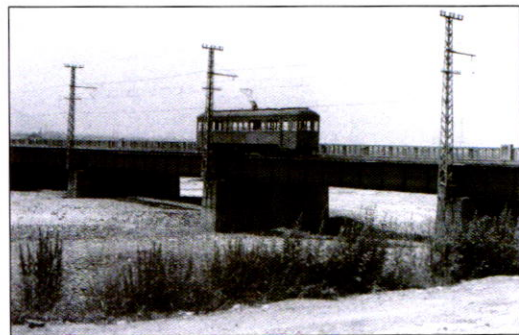
会長 萩原幸造

少々古いことですが、昭和 37 年(1962) まで甲府盆地のなかを中央本線と身延線にもう 1 本山梨交通電車線が走っていました。地元では親しみを込めて「ボロ電」と呼ばれていた。このボロ電は甲府駅前駅から南巨摩郡増穂町(現・富士川町)の甲斐青柳駅まで約 20Km を所用時間 55 分ほどで走行、6 時の始発から終電の 22 時まで毎正時と 30 分毎の 30 分間隔で通常 1 両で運行していた。

戦後の復興期には峡西地方の交通機関の要として発展したと言われたボロ電、私は昭和 30 年 4 月から 3 年間は甲府工業への通学、33 年 4 月から NHK 甲府放送局への通勤で廃線となる 37 年 6 月 30 日までお世話になりました。

ふるさとは増穂の田舎で最寄りの駅は青柳から二つ目の長澤新町、駅までの約 2Km を通学時は徒歩で通勤時には自転車で通った。朝夕のラッシュ時は 2 両編成で運行され始発駅に近いので大体座ることができ乗車時間は約 50 分。

電車は旧甲西町から櫛形・白根町と果樹地帯を走り。開国橋と並行の釜無川橋梁を越えてから玉幡、榎、徳行と田園地帯を走って甲府市街に向かう。釜無川を挟んで果樹地帯と田園地帯にはっきり分かれ、春は桃やスモモの花に初夏は田んぼからのカエルの大合唱。秋の波打つ稲穂に冬は南アルプスから八ヶ岳の雪景色と車窓から四季折々の景色を楽しめるのかなローカル線でした。特に宿直明けの時など空いた車内でゆったりとした走行音を聞きながら景色を眺めていると疲れが癒されたことを思い出す。住宅の密集した甲府市街に入り荒川橋から終点の甲府駅前までは車道と併用の路面電車となり相生町の角を北に向け直角に曲がるころでの車輪の軋む音は今でも記憶に残っている。



〈釜無川橋梁を甲府に向かうボロ電〉

このボロ電、乗合自動車(バス)が復興し路線が拡充されると、陰りが見え始めた。さらに昭和 34 年(1959) 台風 7 号と 15 号(伊勢湾台風) が連続して県内通過の大災害に遭い貢川車庫の倒壊、路盤流出など大きな被害を受け、これが決定打となり昭和 37 年 6 月 30 日で廃止、7 月から電車代行バスが同じ時間帯で運行を開始した。若き日の足となってくれたボロ電に感謝するのみです。荒川橋から青柳の軌道跡は廃棄道として自動車道にバトンタッチされた。

昭和 30 年代後半の車社会に退散させられたボロ電、今なら環境問題・交通事故防止対策から見直しの対象になっていると思う。廃止後車両の一部は長野の上田丸子電鉄及び神奈川県江ノ島電鉄で余生を終わったと聞いている。